

## 平成 29 年度 京都市立白河総合支援学校 学校教育目標・経営方針

校長 松田 実

### 教育理念

- 人は、自ら学び、成長・発達することができる
  - 人は、自ら持てる力を活かし、社会に貢献することができる
  - 人は、自ら生涯にわたって生き方を探求し、豊かな人生を送ることができる
- これらのことを踏まえ、本校は、地域との協働、企業との連携を大切にし、生き方探究（キャリア）教育を推進する

### 学校教育目標

**自ら働く力を高め、働くことを通して社会に貢献し、自らの未来を切り拓く人を育む**

### 目指す生徒像

＜自ら考え行動する生徒＞

- 自ら学び、自らを高めようとする生徒
- 自ら律する力を高めようとする生徒  
(他者や社会とのかかわりの中で、自らより良い行動をとろうとする生徒)
- になりたい自分、ありたい自分を思い描く生徒
- 人に感謝し、社会に貢献しようとする生徒
- 自ら健康管理に努める生徒

### 目指す教職員像

＜職業人として生徒のモデルとなる教職員＞

- 一人一人の生徒を徹底的に大切にする教職員
- 生徒一人一人のキャリア発達を支援するための適切な学習内容・学びの場を提供する教職員
- 総合支援学校教職員としての専門性を高め、自らキャリアアップを図る教職員
- 保護者・地域・企業・関係機関等との連携を大切にする教職員
- 自らの健康管理に努め、ライフワークバランスをとる教職員

### 目指す学校像

＜地域・企業と共に歩む学校＞

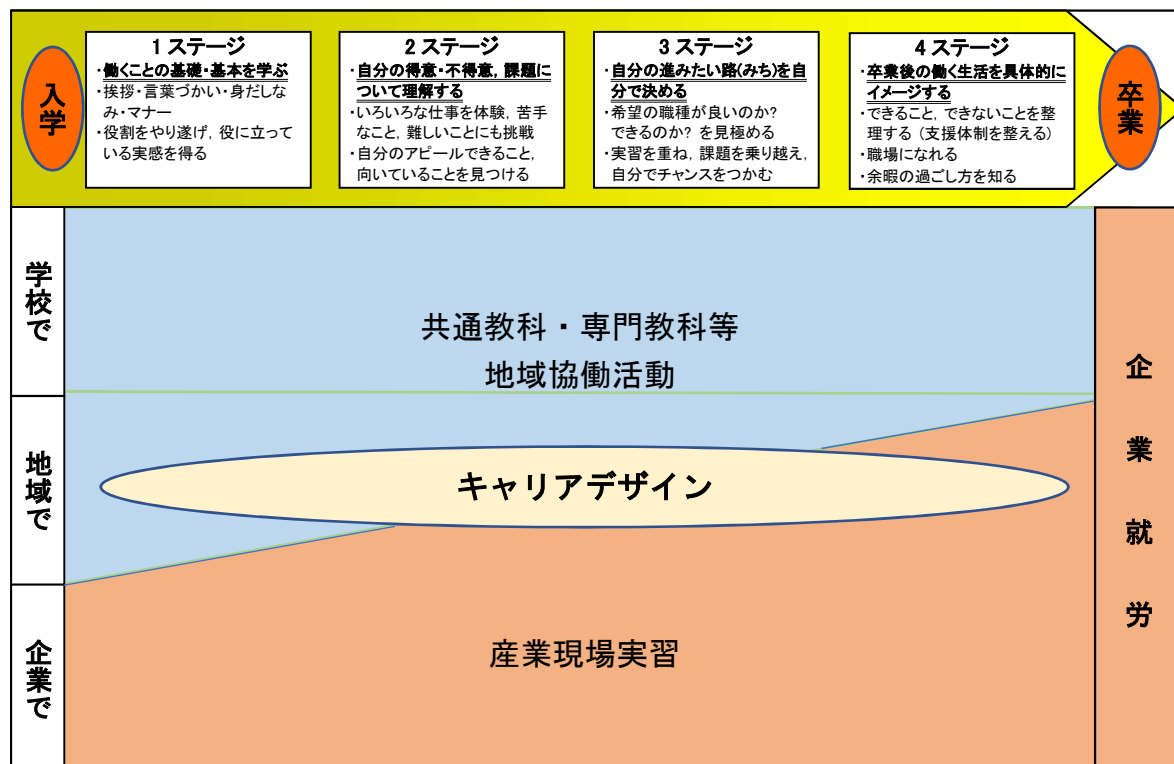
- 地域に開かれ、地域との協働、企業との連携を大切にし、社会に貢献する学校
- 情報発信を積極的に行う学校
- 生徒・保護者・市民から信頼される学校
- 「育」支援センターを中心に総合育成支援教育に関する相談センター機能を発揮する学校

～学校教育活動全てを「学びの場」ととらえる～

## 1. デュアルシステムの充実（企業との連携：学びの環境をデザインする）

企業とのパートナーシップによるデュアルシステムのさらなる充実を図り、生徒の働く力を着実に育成する。

### <教育課程構造図>



(1) キャリアプラン（「個別の包括支援プラン」）に基づく支援計画（「キャリアデザイン」）の作成

- ・ **何のために**、何を、誰が、いつ、どこで、どのようにするかを明確にする
- ・ キャリアデザインの課題の達成状況を確認し、ステージを進行していく  
（学年進行ではなく、個々の状況に合わせて進行、また、固定的なものではない）

(2) 働く力を高め、働く生活を支えるため、専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した指導内容を策定するとともにシラバスの見直し・構築を進める

#### ① 専門教科（食品加工・農園芸・情報印刷）

- ・ 校内外の演習等を通して働く力の基礎的・基本的な知識・技能を高める
- ・ 産業現場実習・共通教科の内容や個々の生徒の課題を関連付けた指導内容を策定する
- ・ 地域協働活動を通して生徒の自己有用感、ひいては自己肯定感を高める

② 共通教科（知的障害特別支援学校の職業学科と普通科に共通する教科）

- ・産業現場実習・専門教科の内容や個々の生徒の課題を関連付け、卒業後の働く生活・家庭生活を支えていくための視点を持った指導内容を策定する
- ・働く生活や文化的で豊かな生活を支え、また、豊かな情操を育てていくため、芸術的教科（音楽・美術）や茶道・華道等の伝統文化に触れる活動を充実させる
- ・働く生活を支える体力を養い、健康で安全な生活を支えるため、保健体育、健康教育、防災教育の内容を充実させる

③ 実習指導の充実

- ・長期の産業現場実習を通して働く力を高める（３年間で３０週間程度を目安とする）
- ・個々の生徒に関わる全ての教職員が生徒の課題や支援方法を把握・共有し、実習指導担当者（担任等）は実習先に的確に伝える
- ・実習から得られた成果や課題、気づき等を個別のキャリアデザインに反映させ、専門教科・共通教科での学習等に活かしていく

④ 指導内容・シラバスの見直し

＜平成 27 年度＞…専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した学習の実施、学習内容の記録・整理①

＜平成 28 年度＞…専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した学習の展開、学習内容の記録・整理②（伝統文化試行）

＜平成 29 年度＞…専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した学習の充実、シラバスの構築（伝統文化実施）

(3) 関係機関や各種経済団体等との連携や協力

- デュアルシステム推進ネットワーク会議、C o C o ネット等（企業関係者とのネットワーク）
- 巣立ちのネットワーク会議（関係機関との支援ネットワーク）

(4) 職場開拓の推進

- ・全教職員、PTA が職場開拓に当たり、実習先や就労先の確保に努める
- ・新しい職域の職場開拓を推進する

## 2. 地域協働活動の充実（**地域との協働**：学びの環境をデザインする）

自己有用感、自己肯定感を高めることに焦点をあて、働くための基盤となる資質や能力を育成するために地域協働活動の充実を図る。

(1) 地域協働活動の意義

- ① 地域協働活動を行うことで、地域の方の活動の場などを創ることができ、地域に貢献することができる
- ② 地域の方々（多様な年齢の方々）からの求めに応じる多様な活動は、生徒の社会性とコミュニケーション力を高める効果が期待できる

- ③ 活動を通じて、「喜んでもらえた」「役に立っている」「共に活動して楽しい」と実感することや、「求められている」「大事にされている」と感じることは、自己有用感を高め、ひいては自己肯定感を高めていくことにもつながり、社会の中で働くためのベースとなる力が育成されていくと考える
- ④ 平成 26～28 年度, 地域協働活動の開発は京都市立総合支援学校職業学科 3 校が共同して行ってきた。平成 29 年度以降も 3 校の協力体制は維持し、その充実を図っていく

## (2) 地域協働活動の例

- ・体操教室（地域包括支援センター）
- ・配食サービス（あんずの会，サクラランボの会）
- ・福ノ川ふれあい交流農園
- ・いどばたサロン（社会福祉協議会）
- ・認知症あんしんサポーター養成講座（地域包括支援センター，錦林小学校）
- ・錦林小学校ゆめいろ学級との協働学習，交流農園，引き売り，パン販売，
- ・子育てサロン・乳幼児教室等でのパン等の販売，児童館イベントの運営参加（錦林児童館）
- ・地域美化活動   ・街路樹サポーター   ・地域感謝祭   等

## 3. 花いっぱい，緑いっぱいプロジェクト（仮称）の推進（地域協働活動の一環）

### (1) ねらい

- ① 地域の方々との活動の場を拓げる
  - ・地域の方々と本校生徒が憩える場，地域の方同志・本校生徒との会話が生まれ，ふれあえる場を創る
- ② 地域と共に学びの環境をデザインする（集う・共に学ぶ・共に楽しむ・共に創る）
- ③ 花いっぱい，緑いっぱいプロジェクトを通して地域の活性化を図る

### (2) 内容

- ① 花いっぱいプロジェクト(仮称)…園芸を活用した集いの場
  - ・旧エデュトープ(元プール及びその周辺)の再開発
  - ・花畑や花壇等を地域の方と協働して造る
  - ・地域の子どもたちが遊べる場としても活用（遊び回れるスペースも造る）
  - ・活動例…ふれあい交流農園，オープンカフェ，園芸教室，苗づくり   等
- ② 緑いっぱいプロジェクト(仮称)…芝生広場(グラウンド)を活用した集いの場
  - ・校庭を芝生化し，地域のスポーツ活動や憩いの場を創る
  - ・活動例…グラウンドゴルフ，フットサル，ゲートボール   等

### (3) 取組の進め方

- ・学校運営協議会の取組ともする
- ・地域の方と協働して創っていく
- ・本校専門教科，共通教科，生徒会活動とも連動させる

### 3. 職業学科 3 校の持つリソース（教育資源）の活用・プラットフォーム化の推進 （3 校連携，校種を越えた連携：学びの環境をデザインする）

※ 教育資源…各専門教科の特長や，白河・東山・鳴滝 3 校が培ってきた指導のノウハウ，各学習施設・設備等

#### (1) リソース活用・プラットフォーム化の意義，

- ① 生徒一人一人のキャリア発達に即した必要としている多様な学びの場を提供することが可能となる
- ② 多様な学びの場を活用することで，個々の生徒の課題に沿った就労支援を進めていく
- ③ 学校を越えた生徒同士の教え合い，学び合いの場ともなる  
(例) ・白河総合の生徒が鳴滝総合に行き，メンテナンス(鳴滝)の学習に入る  
・養正サテライトの喫茶サービスや読み聞かせ等に鳴滝総合の生徒が入る  
・白河総合の配食サービス，情報印刷等に東山総合の生徒が入る
- ④ 職業学科 3 校にとどまらず，地域制総合支援学校，他校種の児童生徒の学びの場としての提供も視野に入れ，今後の職業学科の在り方の検討にもつなげていく

#### (2) 取組の進め方

- ① 職業学科 3 校の協力体制の下，より柔軟な指導体制を構築（担当窓口の設置）
- ② 3 校リソースの活用を担当し推進する役割を校内分掌に位置付けて取り組む

### 4. 気持ちよく学べる学校・地域に愛される学校（環境整備）

- (1) 生徒も教職員も，整理・整頓・美化に努める
- (2) 来客をもてなす明るい雰囲気为学校づくりを進める
- (3) 生徒会活動とも関連付け，いつも花や緑にあふれた学校づくりを進める  
(花いっぱい，緑いっぱいプロジェクト)
- (4) 生徒作品(生徒の発表の場)や絵画・美術作品等が常に展示されている学校づくりを進める
- (5) 掲示物が常に更新され，新たな情報が発信されている学校づくりを進める
- (6) 施設改修・修繕，備品の更新等を計画的に進める

### 5. 学校経理・事務

- (1) 学校予算の適正で効果的な運用に努める
- (2) 間違いのない文書作成および遅滞のない提出に努める
- (3) 文書作成・提出を確実にするための方策を各部署で工夫して立てる

※例 タスク管理表の作成・PC 上の共有・相互点検 等

### 6. 防災体制の充実

- (1) 防災マニュアル・消防計画に基づき以下の点の充実を図る
  - ① 教職員防災体制，保護者との連携，地域との連携，行政との連携の整備
  - ② 毎月の安全点検の確実な実施
  - ③ 避難訓練・防災研修の計画的な実施

- ④ PTA との連携による備蓄の充実
- ⑤ より災害に強い施設設備への計画的な改修

(2) 避難所の開設に当たっては、地域・行政との緊密な連携のもとに行う

- ① 避難所開設・運用訓練（地域自治連合会・地域自主防災会等）の実施への協力  
・教職員・生徒の訓練への参加の検討
- ② 避難所開設用備品，備蓄食料・飲料等の保管

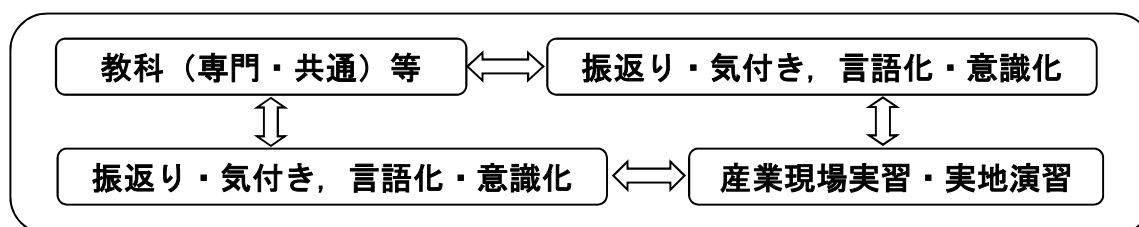
## 指導の基本

### 1. 指導体制

- (1) 専門教科の縦のつながりと学年集団の横のつながり，さらに就労支援を関連付けた指導体制とする
  - (2) 教職員が様々な学習活動〔産業現場実習，教科(専門教科・共通教科)，地域協働活動，3校リソースの活用 等〕に入り，フレキシブルに動ける指導体制とする
- ★自分の担当部署のみにとどまらずに互いに協力して業務を進める

### 2. 対話による振り返りと気づきを大切にする

経験を振り返り，気づき，言語化・意識化し，それに基づき自己選択・自己決定して，達成感や自己有用感を積み上げられるよう支援する



### 3. キャリアデザインを使いこなす

- (1) 各ステージを意識した指導を行い，通過の観点を教員・生徒・保護者が共有する  
(ただし学年進行にはこだわらない)
- (2) 生徒自らが作り活用する「キャリアデザイン」であることを再認識する
- (3) キャリアデザインに反映させた目標や課題の達成状況を具体的に確認し，把握する  
・何のために，何をどのようにするのか，必要な支援や状況づくりも含めて具体的に記入
- (4) 「できる」ための支援，状況づくりの情報を教員間で共有する

### 4. 生徒指導

- (1) 本人の気持ちに寄り添いながら自ら気づき修正できるための支援を行う
- (2) 生徒の主体性を引き出し，生徒同士が育ち合う学級づくり・環境づくりを推進する  
・いじめ，差別を許さない学級集団を育成する
- (3) 全ての学習活動を通して「職業人としての」常識やモラルの指導を徹底する

・挨拶・言葉遣い・姿勢・態度・服装・規則など、マナーやルール等の意味や意義の理解を通した規範意識の確立を図る

- (4) 全ての学習活動を通して「職業人として」必要な健康管理と安全管理の指導を徹底する
- (5) 社会人としてのライフスタイルを見据えた「性と生の指導」の充実を図る
- (6) 問題が起こったときは、組織とネットワーク全体で解決を図る

★学年，専門，就労支援，総務，部活動等全教職員で指導に当たる

※問題対処の指導ではなく，問題が起こらないようにする未然の取組を充実させる

## 5. 各種検定，スポーツ大会，文化的発表会等への積極的な参加

- (1) アビリンピック，ビジネス文書検定等の各種検定に向けて目標を持って取り組めるようにし，チャレンジする精神を育む
- (2) 検定等に向けて取組を進めること，また，合格することで達成感や自信を深められるようにする
- (3) 水泳，陸上，野球，卓球，卓球バレー他，部活動の大会や各種スポーツ大会・記録会等に積極的に参加し，心身を鍛えるとともに豊かな生活を送るための糧とする
- (4) 音楽・和太鼓，茶道等の部活動の発表，美術作品の発表・展示等に積極的に参加することを通して自己の表現活動を行うとともに，豊かな生活を送るための糧とする

## 重要課題・事業（再掲）

### ◆徹底した就労支援

- (1) デュアルシステム，産業現場実習の充実
  - ・実習指導の在り方の見直し
  - ・職場開拓の充実
- (2) 働く力を高め，働く生活を支えるため，専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した指導内容を策定する
- (3) シラバスの見直し・構築を進める

### ◆職業学科3校の共同研究の内容の継続

- (1) 地域協働活動の充実
- (2) 職業学科3校のリソースの共有化・プラットフォーム化の推進
  - 職業学科3校にとどまらず，地域制総合支援学校，他校種の児童生徒の学びの場としての提供も視野に入れ，今後の職業学科の在り方の検討にもつなげていく

### ◆花いっぱい，緑いっぱいプロジェクト（仮称）の推進

- (1) 地域の方々との活動の場を拡げる
- (2) 地域と共に学びの環境をデザインする（集う・共に学ぶ・共に楽しむ・共に創る）